

2025（令和7）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和7年7月9日（水）午後6時00分～
- 会 場 釧路市生涯学習センター7階 705・706
- 出席者 35人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

- （1）釧路都心部まちづくり計画について
- （2）釧路市自然と太陽光発電施設の調和に関する条例の制定について
- （3）釧路市の財政状況及び事務事業の見直しについて
- （4）水道料金の改定について

●質疑応答

【参加者A】

行政サービスの水準を将来世代に引き継いでいく必要性をさまざまな世代に説明していきたいという話がありましたが、市政懇談会の時間帯を見ると学生が参加しやすい時間帯ではないように感じます。例えば学生や若者世代も体験してもらえそうな体制があったら良いのではないのでしょうか。

【市長】

阿寒や音別は別とすると、市政懇談会については今回のまなぼつと幣舞、都心部まちづくり計画については交流プラザさいわいが夜間の開催となっており、学生の方には少し参加しづらいのかな、と思います。

そうした中で、多くの方に参加していただく方法について、やり方を変えつつ検討していきたいと思います。例えば学生の方との対話の機会を設けるといったことも考えていきたいと思います。

しかしながら、夜の時間帯で多くを設定するのが厳しいという部分もあります。そういったことも含めて大きな会場を設定していますので、学生の方や仕事をしている方にお越しいただきたいと思っています。周知の方法も含めて改善していけるように努力していきます。

【参加者B】

都心部まちづくり計画についてですが、資料には救急搬送・津波避難搬送について新たなルートは増えませんかと書いていますが、あまり平坦なところに向か

って逃げても津波の被害範囲は変わらないように感じます。また、財政状況が苦しいという話がありましたので、そもそもやめるという検討が今回新たに発生してくるのではないのでしょうか。

【都心部まちづくり担当部長】

資料に記載されている「津波避難などの新たなルートは増えません」というのは駅の南北が鉄道で分断されているので、その上下を繋ぐ道が増えないということです。実際に地震や津波が起こった際は徒歩避難が原則ですが、過去に行ったシミュレーションでは、突然地震が起きた時に車で走行中の方が逃げるために渋滞が起きるという結果も出ていますので、鉄道の上下を跨いで近くの高い建物に避難するようなことが無いように記載しているものです。また、財政状況についてですが、旭跨線橋が老朽化している現状もありますが、鉄道高架については完成するまで数年かかります。事務事業の見直しについては、将来必要となる投資ができるように事業の見直しを考えているところです。

【参加者C】

まちづくりと連携した駐車場施設などいろいろなことを計画していますが、令和5年度に国土交通省が発表したガイドラインでは、「車を使う人が減り高齢化が進むので、駐車場ばかりを増やすのではなく行きやすい道路があるからまちづくりが発展する」と100ページにわたって書かれていました。私としては駅前を倉敷の美観地区や函館のように、買い物ができるお店があるようにしていただきたいです。クルーズ船が入ってきたとき、「釧路のおみやげはどこで買ったらいいですか」と散策している外国の方から聞かれます。あたりを見てもそういうものはありません。広くなくていいですから、駅前に高齢者と子どもが休日に休める場所が欲しいです。交通手段が便利になるとか、直線化などを早く進めるわけではなく、楽しいまちづくりにしていただきたいです。今お話を聞いた中では釧路のまちをどうしたいのかが見えないです。

【市長】

駅の未来図みたいなものがまだまだ見えていないということでしたが、これまではウォーカブルなまちづくりということで道路のL字化案などを主軸に検討を進めておりました。しかしながら、市民の方からの声もありまして、直線化という案も出てきたため、現在はこちらを主軸に検討させていただいています。そういった中で、駅の南側の部分の面積はある程度確保はできるところです。そこに、今おっしゃっていただいたようなお土産店ですとか、公共公益施設なども

検討の土台に上がってくるとは思いますが、まずはこの道路の形を決めて、その後市民の皆様からの意見をいただきながら、釧路の駅がどうあるべきか、というような形を考えていきたいと考えています。

また、国交省から発表されたウォークブルの件についてですが、東京の駅では毎朝多くの人出入りがあり、まちの中心になっていると思いますが、釧路市を見ると、駅がまちの中心になっているかと言われると違うのかなと思います。人の数で言えばイオンのような商業施設の方がいらっしゃるし、若い世代の方々もそのように考えています。そういった中で、過去経緯として中心市街地に公共公益施設なども集めてきましたが、そういったところを有効に活用しながら、そこをメリットとしていけるようなまちづくりというのを相対的に考えていきたいということです。今後事業を進める中で、いろいろな意見をお聞きする機会があると思いますので、そのときはまたよろしくお願いいたします。

【参加者C】

駅前の土地の持ち主はお店を開いても儲からないために、簡単な方法として駐車場を作ってしまうと思います。しかし一番大事なことはいろんな市民が集まることだと思います。駐車場なんかは作らないでお店を開いた方がいろいろなことができると思います。津波の危険等もいろいろあるので高いタワーを建てるといったことも検討していただければと思います。

【参加者D】

私は東京からの移住者で、3年ほど釧路で過ごしてきましたが、東京で過ごした視点も踏まえつつ釧路のまちづくりを日々考えている中で、先ほど市長がおっしゃった話に共感しました。道路が整備されて車が抜けるとか、東京だと一体化というのがあって、鉄道が地下になったり高架になったりします。下手に鉄道を地下にしたら、人が駅に出ずまちが衰退するということが起きます。車が抜けていければ、そこでわざわざ途中下車して何か用を足していこうという気にはなりません。イオン周辺の集積地の話が出ましたが、イオンは民間企業ですので当然撤退の可能性があります。そこに依存しているように聞こえてしまいました。

将来的に駅前に人が集まった方がいいのか、人が集まらなくても機能的な道路整備を行うのか、市長の中心地に対する思いを聞きたいです。

【市長】

私としては、どちらかというわけではなく、この先の釧路市を全体的に活気あ

る経済的に潤いのあるまちにもしていきたいと考えています。まず、そのための鉄道高架であり、都心部まちづくりだと思っています。例えば、駅にお店や公共公益施設を集めることによって人の流れを作るというのはあるかもしれませんが、その結果、ほかのところに人が行かなくなるということも考えられます。そういったことも含めて、私は中心市街地へのアクセス性を高める中で駅南側、北側といったところの車の流れをスムーズにし、アクセスをよくして、高架下も連動するような形で考えていきたいと思っています。なので、今は空きビルの撤去等、手をつけられるところから先に取り掛かろうと考えています。

【参加者E】

今の都心部まちづくり計画についてA案・B案どちらに決まったとしても工事着工まで8年かかるとのことで、工事までやるとそこから10年、合わせて20年近くになるように感じますがそのぐらいの期間になるということでしょうか。

【都心部まちづくり担当部長】

おっしゃるとおり令和3年3月に策定したまちづくり計画事業構想編では、これからおおむね3年、5年以内に行うもので、釧路市が想定する最短スケジュールでおおむね8年後から事業着手というようなことが書かれていますが、現状、他機関との協議などにより若干遅れているところです。今年の9月までにこの高架下道路の形状等を決定しようと考えていますが、そのときに事業構想編の計画を修正しようと考えておりまして、今年度中に計画の変更を策定し、ロードマップを見直して、今から何年後ぐらいに着手ができて完成までどのぐらいかかるのかというロードマップを更新しようと考えているところです。

【参加者E】

例えば20年後になると釧路市の人口というのは10万人を割ることになります。この人口減については釧路市が出している人口予測を見て話していますが、そのなると2035年以降、75歳以上の人口というのも急激に減っていくこととなりますし、現在計画している都心部まちづくり計画と工事が完了してからの人口には開きがあると思いますが、そうしたことも踏まえた上でのコンパクトなまちづくりを考えていただきたいと思います。

また、20年後には現在の高校生世代が自分の子どもを連れて歩くようになっていくかと思いますが、新聞では「駅に行かない」という高校生世代が60%近くを占めているという記事が掲載されていました。現在の若者世代にとっての

中心街はイオンなどのある場所になっているので、将来の子どもが駅に行くかと言われるとなかなか難しいと思います。そうした実態を見た上で事業を進めてもらいたいと思いますが、当然考えられてのことでしょうか。

【市長】

これからの急激な人口減少というのは、やはり考えていかなければならない本当に大きな課題だと思っていますが、同時に、進めていかなければならないという部分もあります。今の鉄道高架をやらなければ、先ほど説明させていただいたとおり、二つの跨線橋の架け替えになりかなりの費用がかかってくると言われています。そういった中で、何とか釧路市の活力を上げていく、ということも含めて、この鉄道高架というのを選択してやっていかなければなりません。もちろん両跨線橋があと50年以上もつのであれば別ですが、現状そうはいかないということや、維持費の高騰も踏まえて鉄道高架を決断させていただいているところです。

【参加者F】

駅高架の話ですが、両方の橋に限界が来ているというのは紛れもない事実であり、何とかしなければならぬということを聞いていました。しかしながら、橋を架け替えるだけでは、釧路に来てもらうような起爆剤が無いまま、ただ人口が減り、若い人もいなくなることで、駅前のような観光客が集まりやすいところが寂れてしまうように感じます。具体的なまちの名前を出すのは申し訳ないですが、根室市や網走市の駅前のようにになってしまうのではないかと考えています。今、たしかに若い人たちの中心は釧路市と釧路町のイオンになっていますが、釧路にお金を落としてくれるのはインバウンドの方々が大きいです。そして、釧路が開かれたまちになるには、やはり外から人が来て、釧路はいいところだなと思ってくれるようなまちづくりが必要です。外観や建物、景観もあるかと思いますが、まちの人がいない所で建物だけきれいでも興味が湧かないと思います。そういう意味では、地元の人たちも訪れやすく、高校生や若い人達が興味を持つような場所が必要だと思います。そうしたところに地元の人が集まって、外から来た人たちも、そういうところに集まっている人たちを見て楽しそうだと思うようなところをどんどんアピールしていただきたいです。

それから、市民に対しての説明会というのも夜は1回しか無いため、学生だけでなく働いている人も含めて市民が集まれる時間というのはここしか無いのが現状です。こういう議論は賛否両論たくさんあった方がいろいろな角度から見るができると思います。駅高架が実現するのは10年後なのか25年後な

のかという話がありましたが、やらなければ50年たっても何もできず、ただ橋が潰れて事故が起きるだけです。ただ加速すればいいというわけではありませんがいろいろな意見を集めて進めていただきたいと思います。それから、今こうして釧路はまちを変えようとしているということを釧路市民だけでなく、北海道中あるいは全国中にアピールしていくべきであり、市長のアピール力が問われているのではないかと思います。

【都心部まちづくり担当部長】

今回の説明会で行っている内容等につきましては、市の YouTube チャンネルで、資料に音声を入れて先週から公開しています。現時点で約 3,000 回の視聴がされているところです。そのほか、市民向けにはなりますが、広報紙や釧路市公式LINEなどに資料を掲載して情報公開をしているところです。

【市長】

夜間だけではなく、土日等も含めた形で市政懇談会を開催できればというご意見につきましては今後の検討課題にさせていただきたいと思ひますし、すべてに行くことは難しいですが、学校に直接行って学生さんたちと議論をできるような開催方法なども検討させていただきたいと思ひます。タイムリーなものが必要であればアンケートとかそういったものの活用も考えていきたいと思ひます。また、私の発信力といいまふとまだまだ弱い部分もあるかもしれません。そういった意味で、発信の仕方というのでも勉強させていただきながら、市民の方に、どういったことをやっていてどういう方向に進むのか、また、そこに対してどういう意見をいつ求めているのかといったところに力を入れて周知に努めさせていただきたいと思ひます。

【参加者G】

線路が上になることでまちが広くなるということも大事だと思ひますが、昔から釧路駅を見ていると今にも沈んでしまうのではないかと感じてしまひます。相当古い建物ですので、市の調整も大変だと思ひますが、早めに手を打っていただきたいです。この話自体は10年前から進められていたものですし、やるからには応援しますので頑張ってもらいたいと思ひます。それから、釧路が観光都市として成り立っていくためにはなおさらそうだと思います。ふるさと納税についても、隣の白糠町は道内1位となっていますが、釧路はいくらくらいなのでしょう。寄附等も募ってもいいのではと思ひます。

【自治体戦略推進参事】

ふるさと納税の額、釧路の寄附額というご質問ですが、令和6年度は19.4億円となっています。

【市長】

駅舎についてですが、基本的にはＪＲの持ち物・土地なので、ＪＲが改修するべきですけれども、なかなかＪＲ側が大変な状況もあり、釧路駅に投資の話が来ないという現状になっています。昔はステーションデパートの地下もあり、賑わっていた時期は我々の誇りでもあった駅ですが、今となっては60年以上経過した建物ということもあり、見る人の中には寂しいと感じる人もいるかもしれません。しかしながら、我々もＪＲと協力しながら、今後できるだけ早く先に進んでいきたいと思っています。

【参加者H】

財界さっぽろに掲載された記事についてお答えいただきたいです。また、先日の定例記者懇談会で「反社会的組織に手を貸す可能性がある」という発言がありましたが、これは誰を指して言っているのでしょうか。

【市長】

財界さっぽろの記事については、選挙費用収支報告書に掲載しているとおりです。

【参加者H】

「面白おかしく報道するのは結構だが、反社会的組織に手を貸す可能性があるのでお気を付けください」とはどこを指しての発言でしょうか。

【市長】

特定の団体や個人を指して発言したものではございません。

【参加者I】

駅高架について、一直線化になるような形が良いと思います。それから、防災の面で旭改良住宅の空き室に津波一時避難所のための部屋を作っていただきたいです。十数年前から議員の方を通じて議会等でも質問させていただいており、なかなか実現してきませんでしたが、大きな地震がいつ起きても不思議ではな

いです。避難できるのが玄関前のスペースだけでは、お年寄りや寒い中でトイレも無くて、これでは避難意欲が無くなります。

【住宅都市部長】

公営住宅というのは、目的が公営住宅法でしっかり定まっており、「住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸し、又は転貸することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与すること」と法で決まっています。また市営住宅の建設解体の経費についても、法に基づいて国費が2分の1投入されています。そういった関係性上から、その運用についても、法への準拠が求められています。空き住戸の取扱いが、本来入居者である低額所得者、これらの方々への入居を優先するものですので、ご要望にあります常設の避難待機部屋としての使用として、一室開放するということは法的には認められておりませんので、何とぞご理解いただきたく存じます。

ただし、災害発生後に緊急を要する場合、空き住戸を使用することは北海道のほうから自治体の判断で可能であると回答をいただいております。その緊急性においても市側の判断で良いと伺っています。そういった際には、ケースバイケースになりますけれども、しっかり判断して、開放に努めたいと考えています。

【市長】

福祉避難所などは我々も今、防災のほうでしっかり内容等を詰めさせていただいてしっかり用意できるようにはしています。しかしながら、常設でといった面ではお考えのようにできないところもあるかと思いますが、今のご意見も参考とさせていただきたいと思います。

【参加者Ⅰ】

集会室などは法準拠の目的に沿っているのであればそういったスペースを設けるべきです。人の命を守ることですよ。空き部屋ならたくさんあります。

【総務部長】

ご発言のありました旭改良住宅の周りの避難施設につきましては、住民1,462人に対し、周辺の避難場所の収容人数は2,496人分あります。先ほどご意見のあった「廊下に避難することで長時間の避難がきつくなる」というお話でしたが、旭改良住宅の隣にある総合福祉センターという施設も同じく避難場所になっています。その3階4階は和室や会議室もあり、休める状態になっていますので、使い分けをしながら避難をしていただければと思います。福祉の関係等といったところも含めて避難政策の方で検討させていただきたいと思います。

【参加者J】

新しいセクションでマーケティング戦略室というのができたかと思いますが、ふるさと納税を中心に担当しているという話を聞いています。そのほかにもいろいろなことを考えているのではないかと思います。私からの提案として桜まつりを通してインバウンドを呼び込む、ふるさと納税の商品提案などいろいろ出せるのですが、市長の考え方や、マーケティング戦略室の方向性をお話していただければと思います。

【自治体戦略推進参事】

ご質問にありましたように、マーケティング戦略室ではメインとしてふるさと納税を担当しています。そのほかに柱として、シティプロモーションという部分で、どのように釧路市を売っていったらいいのだろうかというところを担当しているほか、市長の公約にありました大学のサテライトキャンパスの誘致、これら3つを柱として業務を進めているところです。このシティプロモーションに関しては、涼しい気候や海の幸など釧路市は良い所がたくさんありますが、バラバラな形でそれぞれをアピールしてきたというところもあります。そこで、「釧路市といえばこれ」というような一つの大きな長期的イメージを作りたいという風に思っています。そのために市民の皆さんにもご協力をいただいて、ワークショップなどを行いながら釧路市を売っていくための長期的なイメージを作りたいと思っています。

【参加者K】

7月に日本製紙の跡地ヘジヨイフルタウンという商業施設ができますが、また商業施設ができるのかと思いました。市民からも「商業施設ではなく製造業の会社に入ってほしい」という意見が新聞に出ていましたが、その後、製材業のスナダヤさんが入るということで、やっと製造業の会社ができると思いました。ところが、日本製紙さんと意見が合わずもう入らないということを新聞で見ました。代替となる場所を用意しているというようなことも見ましたが、その後どうなっているのでしょうか。

【産業推進部長】

今お話があったように、当初は日本製紙釧路工場が撤退した後は、愛媛県に本社を構える大手の製造業者が釧路に進出して、工場跡地を活用できないかとい

うことで話が進んでおりましたが、既存の土地と工場のレイアウトがなかなか一致できないということで、釧路工場跡地の利活用は断念したというのは報道にもあったとおりです。その後ですが、釧路への進出は諦めておらず、ぜひとも釧路で工場を建設したいという思いから、複数の候補地をいろいろあたって今まさに検討中ということをお我々も伺っている状況です。近々、正式にどのような形になるのか、場所はどこなのかということも含めて報道のリリースがあるかと思っています。

【参加者 L】

お祭りの歩行者天国についてです。人がおらずボランティアもいないために規模が縮小されていますが、A案B案で見えていくと、A案では駅前に広々としたスペースが作れると思いますが、B案だと分断される広場ができると思います。先日、稚内市の方に行きましたが、駅舎が路面に設置していて線路だけが高架になっており駅前が広がっていました。そこではお祭りを準備していましたが、そこは道路ではないので人員を確保しなくても広いスペースでイベント等ができるということで、A案では広々としたイベントスペースを確保できるのに対し、B案では分断されてしまうように感じました。

【都心部まちづくり担当部長】

確かにA案については、駅の南側の位置に大きな街区ができるというのがメリットです。しかしながら、一定程度直線の方が良いという意見もいただいています。こうした意見を検討し、B案で真っすぐな道路をつないで左右に分断されるところではありますが、どちらとも一定程度の大きさの街区ができますので、例えば駅の前にはタクシープールや、バス乗り場であったり、向かい側に公共公益施設であったり広場であったり、1枚の大きな街区ではありませんが、一つ一つある一定程度の大きさのものができると考えているところです。